

# シビル メール ニュース



これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方または郵送を希望される方は、卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレスを明記の上、[mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp](mailto:mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp)で申し込み下さい。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

## 教室主任教授 岸井隆幸より新年の挨拶です



### 新年の挨拶

岸井隆幸

明けましておめでとうございます。新しい年の朝をさわやかにお迎えでしょうか？早いもので、平成も20年を数えました。激動の弊政、失われた10年といわれたトンネルをくぐり抜け、少しは明るい兆しが見えてきているのでしょうか？中には「トンネルを抜けるとそこは雪国であった」という方もいるかも知れませんが、ヒマラヤの氷河がアジアの主要な大河川の水源であるように、雪は空からの贈り物、真っ白な別世界は新鮮な感動を呼び起こし、やがて我々に大きな恵みを与えてくれるものと信じたいと思います。

シビルメールニュースは今年も、様々な大学の話題、全国各地の卒業生の話題を拾い集めてお届けいたします。最近、年のせいか、季節がめぐるのが早いように感じられます。正月を迎えればすぐに春、雪どけの話題をお楽しみに。

## 第51回学術講演会が開催されました

12月1日(土)駿河台校舎1号館にて平成19年度(第51回)日本大学理工学部学術講演会が開催されました。講演会は、特別セッションと14の部会、理工学部学術賞受賞記念講演とで構成され、それぞれに口頭発表セッション、もしくはポスター発表セッションが設けられました。土木工学科も多くの教員ならびに大学院生、学部生が参加いたしました。理工学部学術賞を受賞した、齋藤利晃准教授が約30分の受賞記念講演「脱窒能力を有するリン蓄積細菌の探索と低環境負荷型新規栄養塩除去プロセスの開発」を行いました。司会の理工学研究 所長伊藤彰義教授から「この講演で土木のイメージが変わりましたね」と講評いただき、環境分野の土木を知っていただける良い機会になりました。なお、優秀発表賞として土木工学科から2名の学生が選ばれました。以下に受賞者と課題名を掲載いたします。



記念講演での  
齋藤利晃准教授

### 優秀発表者賞受賞者(土木)

喜多村 延政 (大学院博士後期課程)

「都市街路樹の枯葉を用いたアオコの発生抑制に関する検討」

持田 俊 (学部3年生)

「自由跳水の流況形成に対するレイノルズ数の影響」

ポスター発表  
セッション



## 公務員試験合格者による公務員キックオフセミナーが開催されました

12月7日（金）駿河台校舎1号館141教室にて公務員試験合格者による公務員キックオフセミナーが開催されました。当セミナーは次年度の公務員試験受験希望者に向けて行われるもので、理工学部主催で開催されました。初めに、理工学部次長 真下清教授から挨拶があり、株式会社実務教育出版の岡田卓三部長より、公務員試験の概要について30分ほど説明を受けました。続いて当学科の公務員試験対策委員の後藤浩専任講師の司会のもと、約1時間に渡って公務員試験合格者による合格体験談が、1問1答形式で行われました。最後に、理工学部就職担当教授兼公務員試験対策委員会委員長である当学科の野村卓史教授の挨拶があり、閉会となりました。参加した学生は約100名で、パネリストとして合格体験を話してくださった学生は5名です。



司会の後藤先生とパネリスト  
土木工学科3名



## 就職相談会が開催されました

12月21日（金）駿河台校舎1号館にて、土木工学科就職相談会が行われました。今回は昨年度より40社近く増え、89社の企業に参加していただきました。就職相談会は、企業1社につき、机1枚分のスペース（約2m×2m）を設け、学生が好きな企業のブースで相談する形式にしました。ブースは駿河台校舎1号館のCSTホール、5階ギャラリーおよび、4・5階の各教室に設置いたしました。この相談会には土木工学科の学生約140名が参加し、各企業の方々から業務内容等を聞き、就職についての相談を個別にさせていただきました。就職活動を始めたばかりの3年生・大学院1年生は、まだ企業との交流に不慣れなところもありましたが、企業の方々と熱心に質疑応答をしておりました。

なお、この就職相談会の終了後19時から、1号館のカフェテリアにて企業の方々と教員との懇談会が行われました。



相談会場にて

## 平成20年度日本大学学術研究助成金受領者が決定されました

平成20年度日本大学学術研究助成金受領者として、土木工学科から長谷部寛助手が選ばれました。

研究題目	所属	資格	研究代表者	研究題目
一般研究 (個人研究 奨励・萌芽)	土木工学科	助手	長谷部 寛	接近して配置された複数構造物の 気流性状に関する研究

## 芋煮会が開催されました

12月22日(土)13時から駿河台校舎にて、特別講義I(授業)の一環として1年生の冬休み企画「芋煮会」が開催され、1年生クラス担任 安田陽一教授からの開会挨拶に続き、本会の説明が行われました。初めに競技イベントと研究室訪問を行いました。競技イベントでは、5~10名が1班となり、ストローとクリップのみを用いて作る橋梁模型の耐荷競技が行われました。荷重にはA4レポート用紙が用いられ、11冊の荷重に耐えた班が優勝いたしました。研究室訪問では、各研究室の前に研究室紹介とキーワードが入った用紙を設置し、それらを集めると、ある答えが見つかるクイズ形式のイベントが行われました。駿河台校舎では、研究室を探し回る1年生で大いに盛り上がりました。なお、本会に約170名の1年生が参加し、競技イベント優秀班、クイズ正解者には景品が用意されました。17時から懇親会として、「おでん」が配給され、クラス幹事が率先して配膳を担当し、参加した学生を労いました。



おでんの配膳を行う  
クラス幹事

# 日大土木 Who's who

日大土木とともに歩んだ偉人を紹介するコーナーです。今回は初代日本大学土木工学科の主任教授に就任し、土木工学科のために尽力された**山口昇先生**です。



No. 8

氏名：山口 昇 (やまぐち のぼる)

専門分野：応用力学

略歴：

1891年(明治24年) 静岡県志太郡福島で誕生

1914年(大正3年) 東京帝国大学工科大学土木工学科卒業

1915年(大正4年) 内務省入省

1918年(大正7年) 東京帝国大学助教授就任

1926年(大正15年) 東京帝国大学教授就任

1928年(昭和3年) 工学博士号を取得

1928年(昭和3年) 日本大学初代主任教授就任

1961年(昭和36年) 他界

山口先生は東京大学教授となり、応用力学ならびに応用弾性学の講義を担当されました。当時の応用力学は、技術学生に理解しにくいところが多かったようですが、これを平易清新なものとされたのは山口先生の大きな功績であり、名著『応用力学ポケットブック』に、その一端がうかがわれます。

1929年(昭和4年)、我が国の私学において初めて、日本大学に土木工学科が設立され、当時の土木学界や、土木行政面での権威者たちによって土木工学科の教育計画等が描かれ日本大学理工学部土木工学科の母体が発足いたしました。その初代主任教授として山口先生が着任されました。初代主任教授となった山口先生を中心として行われた教育は、最高府として、官立大学にまさる教育でありました。

また、先生の研究分野での活躍も目覚しく、中でも30才代での応用力学に関する研究、特に学位請求論文となった熱応力、トンネル応力の研究は、いわゆる“山はね”を解明し、地圧の大きい岩石トンネルの施工に一つの指針を与えました。

昭和12年ころから体の不調のため代講が年とともに増えたようですが、日本大学、東京大学で先生の応用力学の講義を受けた学生は、ゆうに1000人を越すと思われます。

- 参考文献
- ・日本大学理工学部 五十年史
  - ・理工土木ニューズレター第4号
  - ・土木人物事典 藤井肇男 アテネ書房

## 最近の教員活動状況



島崎敏一教授、金子雄一郎専任講師、大沢昌玄助手、下原祥平助手が、11月23日(金)から25日(日)に青森県八戸工業大学で開催された土木学会第36回土木計画学研究発表会に出席しました。

その中で、社会基盤マネジメント研究室の金子雄一郎専任講師が「都市鉄道を対象とした経路配分手法の推計特性に関する比較分析」、都市計画研究室の大沢昌玄助手が「土地区画整理事業と市街地再開発事業の合併施行の実態」、18年度大学院を修了した守口直希さんが「鉄道の立体化が地域住民に与える影響に関する研究」、交通研究室の大学院生の杉原賢介君が「自転車の交通違反への反則金の適用」、渡邊泰史君が「情報伝達ネットワークの形成に基づく帰宅困難者支援場所利用者数の予測」について研究発表を行いました。

また、金子雄一郎専任講師は交通手段選択のセッションにおいて座長を務められました。



野村卓史教授が11月26日(月)、27日(火)に「台風に伴う強風、豪雨などの気象災害の被害軽減に関する研究集会」、12月3日(月)に「計算力学に関するアジア太平洋国際会議 APCOM' 07-EPMESC XI」に参加されました。

以下、野村卓史教授のからの談話を掲載いたします。

「平成19年11月26、27日に京都大学防災研究所において開催された「台風に伴う強風、豪雨などの気象災害の被害軽減に関する研究集会」に研究代表者として参加いたしました。この研究集会は、気象学と風工学の研究者が交流する場であり、2日間で28件の講演と研究発表が行われました。近年、台風や竜巻に伴う突風災害が社会問題化している折から、参加者は100名を越え、一時は座れないほどの大盛況でありました。私は研究集会の総括を担当し、台風に伴う竜巻の発生予測と被害対策に向けて、気象学からのアプローチと風工学からのアプローチの融合を図ることが重要課題であるなどの結論を得ました。

また、平成19年12月3日(月)に京都国際会館で開催された「計算力学に関するアジア太平洋国際会議 APCOM' 07-EPMESC XI」に参加し、ミニシンポジウム Computational Methods in Environmental Flow Problems の共同オーガナイザとして、最初のセッションの座長を務め、合わせて「気象要因を反映した音の伝播解析法」に関する研究発表を行いました。このセッションには旧知の国立台湾大学の Tony Sheu 教授を招待し、つかの間ではありましたが旧交を温めることができました。」



重村智助手が12月8日(土)から12日(水)まで、国際地盤工学会第13回アジア地域会議において、「Mechanical Characteristics and Failure Criteria of a Shear Band」の論文発表を行うためにインド(コルカタ)へ出張しました。論文は、徳江俊秀教授との一連の研究成果をまとめたもので、地盤のせん断帯の構造モデルとそこに適用する破壊規準を明らかにしたものです。

## 范 留明教授の歓迎会が行われました

日本大学理工学部と西安理工大学との学術交流の一環として、塩尻弘雄教授、花田和史教授、徳江俊秀教授の下で研究されていた、西安理工大学岩土工学科、范 留明(ファン・リュウミン)副教授の講演が11月28日(水)17時より、ウェルトンビル w51 教室にて行われ、講演終了後ビストロ備前にて歓迎パーティーが行われました。



ビストロ備前にて 集合写真  
范先生は前列左から2番目